

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校 神戸文化服装学院
設置者名	学校法人 神戸文化服装学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間 通信制 の場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の 単位数又は授 業時数	省令で定める 基準単位数又 は授業時数	配置 困難
服飾専門課程	ファッション本科		765 時間	160 時間	
	技術専攻科		365 時間	80 時間	
	ファッション研究科		720 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="http://kobebunka.ac.jp/about.html">http://kobebunka.ac.jp/about.html</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校 神戸文化服装学院
設置者名	学校法人 神戸文化服装学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://kobebunka.ac.jp/about.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	アパレル関係事業主	2020.03.08 ～ 2023.03.07	現場で求められているスキルを育てる教育への提案、助言
非常勤	通信関係会社社員	2020.07.22 ～ 2023.07.21	学校 ICT に対する提案、助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校 神戸文化服装学院
設置者名	学校法人 神戸文化服装学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会情勢に鑑み、生徒一人一人が社会に求められる人材になるための授業を組み立てられるよう、毎年度教職員が話し合い、科目、学年ごとの授業計画を決定している。</li> <li>・シラバスに記載する授業内容や到達目標については、出来るだけ具体的に記載するように作成し、HPに公開するなど、在校生や入学希望者が授業内容をイメージしやすいよう、分かりやすい方式をとっている。</li> <li>・成績評価については、採点基準を明確に定めている。</li> </ul>	
授業計画書の公表方法	<a href="http://kobebunka.ac.jp/about.html">http://kobebunka.ac.jp/about.html</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)  <p>所定の学科で、定められた授業単位時間数を履修し、提出物を提出または試験を受けて合格した場合には、学期末または学年末に成績評価が与えられる。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学科で、定められた授業単位時間数を履修し、提出物を提出または試験を受けて合格した場合には、学期末または学年末に成績評価が与えられる。授業の成績評価は、出席率、授業への姿勢、提出物などをもとに総合的に判断して点数をつける。</p> <p>評価の基準は次の通り。</p> <p>評価の基準は次の通り。</p> <p>A° (100～95点) 目標を十分に達成し、非常に優秀である。</p> <p>A (94～85点) 目標を十分に達成し、優秀である。</p> <p>B (84～75点) 目標を十分に達成している。</p> <p>C (74～65点) 目標を達成している。</p> <p>D (64～55点) 目標を最低限達成している。</p> <p>E 54点以下 不可</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p><a href="http://kobebunka.ac.jp/about.html">http://kobebunka.ac.jp/about.html</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校の教育目標である「服装についての知識と感性を高め、その制作技術を習得することにより、ファッションクリエイターとして社会に貢献できる人材の育成」を実現するために、専門課程の各科が設定した卒業要件科目の履修、そして各科で求められる知識、技術、資格等を身につけた学生に卒業を認定する。

### **\*ファッション本科\***

本校の服飾専門課程 ファッション本科においては、2年間の課程修了者に対し「専門士」の称号が付与される。ファッション本科の卒業認定及び専門士称号付与に必要な要件は以下の通りである。

- ① 2年間の課程を修了していること。
- ② 総授業時間数2000時間を履修すること。
- ③ 試験、提出物等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了認定を行っていること。

#### **【課程修了認定条件】**

- ・卒業までの出席日数及び出席時数が70%以上であること。
- ・学年末の成績で、「E」判定が1つ以下の成績を修得すること。
- ・課題作品をすべて制作及び提出すること。

- ④ 課程修了までに下記到達目標に達しているとみなされること。
  - ・服飾造形の基礎知識を理解し、課題制作を通して服作りの技術と理論を習得している。
  - ・服飾のデザインにおける基礎知識と技術を身につけ、創造力・応用力を身につけている。
  - ・デザインを形にするための基本的な表現技術、オリジナルデザインの発想力を身につけている。
  - ・作品制作を通して自己の発想内容を他者に対して表現し伝える手段を学び、実現することが出来る。

学年末に教職員による成績会議を開催し、上記認定要件を満たした学生について校長より課程修了の認定を得て、正式な卒業認定及び専門士称号を付与する。

### **\*技術専攻科\***

本校の服飾専門課程 技術専攻科の卒業認定に必要な要件は以下の通りである。

- ① 1年間の課程を修了していること。
- ② 総授業時間数1000時間を履修すること。
- ③ 試験、提出物等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了認定を行っていること。

#### **【課程修了認定条件】**

- ・卒業までの出席日数及び出席時数が70%以上であること。
- ・学年末の成績で、「E」判定が1つ以下の成績を修得すること。
- ・課題作品をすべて制作及び提出すること。

- ④ 課程修了までに下記到達目標に達しているとみなされていること
  - ・服飾造形の基礎知識を土台とし、課題制作を通してより応用的な服作りの技術と理

論を習得している。

- ・服飾のデザインにおける基礎知識と技術を身につけ、創造力・応用力を身につけている。
- ・現代の多様なファッションの在り方の理解をふまえ、自己の発想力・表現力の更なる向上につなげている。
- ・課題制作を通じて成長し、自己の「問題解決力」「目標達成力」「研究力」向上につなげている。
- ・作品制作を通して自己の発想内容を他者に対して表現し伝える手段を学び、実現することが出来る。
- ・ショーなどの作品発表を通じて、他者と協力し、自己の「計画力」「コミュニケーション力」向上につなげている。

学年末に教職員による成績会議を開催し、上記認定要件を満たした学生について校長より課程修了の認定を得て正式な卒業認定を行う。

### **\*ファッション研究科\***

本校の服飾専門課程 ファッション研究科の卒業認定に必要な要件は以下の通りである。

- ① 2年間の課程を修了していること。
- ② 総授業時間数2000時間を履修すること。
- ③ 試験、提出物等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了認定を行っていること。

#### **【課程修了認定条件】**

- ・卒業までの出席日数及び出席時数が70%以上であること。
- ・学年末の成績で、「E」判定が1つ以下の成績を修得すること。
- ・課題作品をすべて制作及び提出すること。

- ④ 課程修了までに下記到達目標に達しているとみなされていること
  - ・服飾造形の基礎知識を土台とし、課題制作を通してより応用的な服作りの技術と理論を習得している。
  - ・服飾のデザインにおける基礎知識と技術を身につけ、創造力・分析力を身につけている。
  - ・現代の多様なファッションの在り方の理解をふまえ、自己の発想力・表現力の更なる向上につなげている。
  - ・課題制作を通じて成長し、自己の「問題解決力」「目標達成力」「研究力」向上につなげている。
  - ・作品制作を通して自己の発想内容を他者に対して表現し伝える手段を学び、実現することが出来る。
  - ・ショーなどの作品発表を通じて、他者と協力し、自己の「計画力」「コミュニケーション力」向上につなげている。
  - ・将来、服飾関係の仕事に就いたときに、指導的な立場に立てるよう、研究を怠らない。

学年末に教職員による成績会議を開催し、上記認定要件を満たした学生について校長より課程修了の認定を得て正式な卒業認定を行う。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

<http://kobebunka.ac.jp/about.html>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校 神戸文化服装学院
設置者名	学校法人 神戸文化服装学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://kobebunka.ac.jp/about.html">http://kobebunka.ac.jp/about.html</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://kobebunka.ac.jp/about.html">http://kobebunka.ac.jp/about.html</a>
財産目録	<a href="http://kobebunka.ac.jp/about.html">http://kobebunka.ac.jp/about.html</a>
事業報告書	<a href="http://kobebunka.ac.jp/about.html">http://kobebunka.ac.jp/about.html</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://kobebunka.ac.jp/about.html">http://kobebunka.ac.jp/about.html</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		専門課程	ファッション本科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 部	2000 単位時間／単位	340 単位時 間/単位	300 単位時 間/単位	1250 単位時 間/単位	110 単位時 間/単位	
			2000 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		13人	2人	9人	2人	11人	
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）							
<p>（概要）初心者が確実に力をつけられるように、丁寧に指導している。生徒にわからないことがあれば、教師に質問しやすい環境を整えている。</p> <p>年間の授業計画はシラバスの通り、講義、実習を連動し、服装造形における理解を深められるようにしている。</p>							
成績評価の基準・方法							
<p>（概要）所定の学科で、定められた授業単位時間数を履修し、提出物を提出または試験を受けて合格した場合には、学期末または学年末に成績評価が与えられる。</p> <p>成績評価方法は、科目により割合は違うものの、出席率、提出物または試験、授業態度などを総合的に勘案して判定する。</p>							
卒業・進級の認定基準							
<p>（概要）所定の授業単位時間数を履修していること。</p>							
学修支援等							



(概要) 個人的に質問がある場合は、休み時間や授業時間後に時間を区切って教師に質問することができる。必要な場合には補習を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6人 (100%)	5人 ( 83%)	1人 ( 17 %)	0人 ( 0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 就職情報の提供、相談			
(主な学修成果 (資格・検定等) ) パターンメイキング検定、服飾技術認定試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14 人	1 人	7%
(中途退学の主な理由) 自己都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 適宜、個別に相談に乗り、必要な場合は生活指導をしています。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
服飾・家政		専門課程	技術専攻科			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
1年	昼 間 部	1000 単位時間/単位	140 単位時間 /単位	190 単位時 間/単 位	580 単位時 間/単 位	90 単位時 間/単 位
			1000 単位時間/単位			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人	4人	0人	9人	2人	11人	
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）						
（概要）ファッション本科、またはほかの服飾系短期大学で学んだことを基に、技術を向上させ、表現の幅を広げる。						
成績評価の基準・方法						
（概要）所定の学科で、定められた授業単位時間数を履修し、提出物を提出または試験を受けて合格した場合には、学期末または学年末に成績評価が与えられる。成績評価方法は、科目により割合は違うものの、出席率、提出物または試験、授業態度などを総合的に勘案して判定する						
卒業・進級の認定基準						
（概要）所定の単位時間数を履修していること。						
学修支援等						
（概要）教師に質問することができる。必要な場合には補習を行う。						

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)	人 (%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 適宜相談に乗っています。			
（主な学修成果（資格・検定等）） パターンメイキング検定、洋裁技術認定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	0人	100%
(中途退学の主な理由) 就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人的に、適宜相談に乗っています。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
服飾・家政	専門課程	ファッション研究科					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間部	2000 単位時間/単位	320 単位時間/ /単位	520 単位時間/ 単位	960 単位時 間/単位	単位時 間/単位	200 単位時 間/単位
			2000 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	1人	0人	9人	2人	11人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)

(概要) これまで学んだ基礎をもとに、更にデザイン力を磨き、レベルの高い縫製とパターンメイキングの習得を目指す。イメージをデザインに落とし込めるように、また、デザインを人に伝えられるようにトレーニングを行う。

成績評価の基準・方法

(概要) 所定の学科で、定められた授業単位時間数を履修し、提出物を提出または試験を受けて合格した場合には、学期末または学年末に成績評価が与えられる。成績評価方法は、科目により割合は違うものの、出席率、提出物または試験、授業態度などを総合的に勘案して判定する

卒業・進級の認定基準

(概要) 所定の単位時間数を履修していること。

学修支援等

(概要)

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)	1人 (100%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 就職情報案内、面接指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) パターンメイキング検定、洋裁技術認定試験			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	1人	50%
(中途退学の主な理由) コロナの影響による、留学生の帰国		
(中退防止・中退者支援のための取組) 適宜、個別に相談に乗っています。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
ファッション本科	210.000 円	684.000 円	60.000 円	
技術 専攻科	210.000 円	684.000 円	60.000 円	
ファッション 研究科	210.000 円	684.000 円	60.000 円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 <a href="http://kobebunka.ac.jp/about.html">http://kobebunka.ac.jp/about.html</a>		
<p>学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)</p> <p>自己評価をもとに、教育課程、授業編成、進路指導について学校関係者評価委員に助言や提案をして頂く。</p> <p>委員は、3名とする。服飾事業関係者、卒業生、保護者などから学院長が選出する。評価結果は、学院長が理事会に提出するほか、教職員の間でも共有する。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
服飾関係会社取締役	2020.03.07～2023.03.06	服飾事業関係者
服飾関係事業主	2020.03.07～2023.03.06	卒業生
デザイナー	2020.03.07～2023.03.06	服飾事業関係者
学校関係者評価結果の公表方法 <a href="http://kobebunka.ac.jp/about.html">http://kobebunka.ac.jp/about.html</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)  
<http://kobebunka.ac.jp/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	専門学校 神戸文化服装学院
設置者名	学校法人 神戸文化服装学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に 連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人

年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
G P A等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人



(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。